

## 別紙 2

### 令和 4 年度藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会委員からの 意見に対する対応について

#### (1) 各計画の実施状況に対するご意見について

第五次藤井寺市総合計画後期基本計画及び第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況と内部評価・検証に対し、委員の皆様のご意見を活かしたアイデアやアドバイス等、様々なご意見を頂戴いたしました。いただきましたご意見は、担当部署へ伝達し、本年度の施策の推進に活用させていただきます。

#### (2) 委員からの質問等に関する回答について

委員に皆様よりいただいたご意見の中に、質問事項や内部評価の書き換えに関する内容がございました。下記では、質問事項の回答や資料の加筆修正内容についてお知らせします。

##### ①商工業の振興について

ご意見	市内商工業者に対してアンケート調査を実施したとのことであるが、調査が目的ではなく、それを受けてどのような施策を展開するかが、問題。どのような実態→課題解決の方策の検討→策定まで進んだのか、記述して欲しいし、評価にも加えて欲しい。
対応	今回の進捗状況の報告は、令和 3 年度までの取組に関する内容であったため、アンケート調査のみ行っているような表記になっておりました。令和 4 年度に、アンケート調査結果の分析を行い、それを元に中小企業振興に関する計画策定、商工業振興の機運醸成策、情勢に応じた事業者支援補助制度の充実等を図っていくこととしております。そのあたりも含めて、内部評価資料を加筆修正させていただきました。該当箇所は以下の通りです。 <修正箇所> ・「第五次藤井寺市総合計画後期基本計画 重点戦略進捗状況報告」の 8 ページの「商工業の振興」の進捗内容の記載部分 ⑥「第 2 期藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略 内部評価検証<令和 3 年度版>」27 ページの「主要施策 2 中小企業への支援」内、「令和 4 年度以降の方向性 (ACT)」の記載内容

②観光振興

ご意見	訴求する年代層を絞った「フジイデライク」を活用した観光キャンペーンは、成功しているように見える。最終的には、来訪者がどのくらい増加したかが、評価基準になると考えられるが、とりあえずはその前段階の投稿数で評価すると、計画以上の進捗◎でも良いのではないか。
対応	<p>ご指摘いただいているまちづくり指標「「#フジイデライク」への総投稿数」の評価判定については、内部評価の際に判断基準を下記のとおり設けております。そのため、現在の「○計画通り」のままとさせていただきます。</p> <p>&lt;まちづくり指標の評価にかかる判断基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投稿数等の数値は、年度ごとに変動する数値であり、令和3年度に令和5年度目標数値を超えていても、令和4年度には下回ってしまうことも考えられます。そのため、令和3年度で「◎目標達成」とするのではなく、令和5年度時までキープしておく必要がある指標については、「○計画通り」としています。</li> </ul>

ご意見	シェアサイクルの導入中止は寂しいながらも、現実的な判断かと思われる。担当課は異なるが、「もずふるレンタサイクル事業」と連携は測れなかったかという疑問を抱く。
対応	シェアサイクルの検討の中で、もずふるレンタサイクルの取り扱いを調整する前に、導入を断念するという結果になりました。再度新たなモビリティの導入検討の際には、もずふるレンタサイクルの取り扱いと合わせて検討いたします。

(3) 現行計画及び次期計画の取り扱いについて

委員より、「コロナ禍で人流の抑制等が行われるなど社会環境が激変し、指標の基礎となる人員動員や、予定事業中止といった影響もあり、指標に拘らずに多くの項目が「概ね計画通りだが、一部未実施、未達成」となってしまっており、資料上での評価に困った。評価指標を弾力的に見直しつつ、コロナ禍でも評価指標が意味をなすように、それにより各事業が市民ニーズを汲み、少しでも事業が前に進むような評価指標、施策体系なり、評価体系を進めていただきたいと思う。新型コロナウイルス感染症拡大による意識・行動など、生活様式、経済のあり様が大きく変化した。新しい社会環境に対応した評価指標や、施策の構築、見直しをもっと進めてほしいと史料する。」というご意見をいただきました。

事務局としましても、総合計画の性質上、内容を修正しにくい作りになっていること

や、市民ニーズの多様化・複雑化、社会潮流の変化のスピードが増していることなどから、現在の計画の作りが課題となっていると認識しております。現在、本計画の効果検証を踏まえながら次期（第六次）総合計画の策定を進めていることから、いただきましたご意見を参考にさせていただき、より時代にあった柔軟な計画の策定に取り組んでまいりたいと考えております。